

宇宙開発の現状報告

(平成 24 年 1 月 11 日(水曜日)～平成 24 年 1 月 24 日(火曜日))

平成 24 年 1 月 25 日
宇宙開発委員会事務局

宇宙開発に関する国内の動向

- 観測ロケット(S-520-26 号機)の打上げ結果について

1 月 12 日(木曜日)5 時 51 分(日本標準時間)、JAXA は熱圏中性大気とプラズマの結合過程解明を目的とした観測ロケット S-520-26 号機を内之浦宇宙空間観測所から打ち上げた。

ロケットの飛翔は正常で、搭載観測装置の一つ(イオン質量エネルギー分析器)を除き、正常な観測が行われた。ロケットから放出されたリチウムガスによる赤色雲は、内之浦、宿毛、室戸の各地上観測点で約 30 分間観測された。ロケットに搭載されたビーコン送信機からの電波は 6 箇所の上観測点にて正常に受信された。今回取得されたデータを用いて、詳細な解析が今後実施される予定。

なお、今回の観測ロケットでは、平成 23 年 12 月 19 日に打ち上げた S-310-40 号機と同様のロケットの点火や管制及び機体計測などを行う新開発の統合型搭載機体管制装置(統合型アビオニクス)を搭載し、その飛翔試験も兼ねて実験を実施した。この機能も正常で、今後打ち上げる観測ロケットに使用されるこのシステムの健全性を確認できたとのこと。

- 古川宇宙飛行士国際宇宙ステーション(ISS)長期滞在ミッション報告会の開催結果について
1 月 16 日(月曜日)、渋谷区文化総合センター大和田さくらホールにおいて、JAXA の主催により古川宇宙飛行士国際宇宙ステーション(ISS)長期滞在ミッション報告会が開催され、高校生以上の 631 名が参加した。古川聡宇宙飛行士(JAXA)、マイケル・フォッサム宇宙飛行士(米国航空宇宙局(NASA))、セルゲイ・ヴォルコフ宇宙飛行士(ロシア連邦宇宙局(FSA))、徳島大学松本俊夫教授、二川健教授、横浜市立大学朴三用准教授が登壇し、ミッションの紹介、「きぼう」日本実験棟で行われた実験の成果報告、及び実験成果に関する研究者と宇宙飛行士によるパネルディスカッションが行われた。
- 古川・星出宇宙飛行士による表敬訪問について
1 月 23 日(月曜日)、古川・星出宇宙飛行士が、野田総理大臣、平野文部科学大臣、古川宇宙開発担当大臣に表敬訪問を実施した。古川宇宙飛行士からは、5 ヶ月半に及ぶ国際宇宙ステーションでの長期滞在について報告を行い、星出宇宙飛行士からは今年 5 月末(予定)からの長期滞在に向けたご挨拶を行い、激励を受けた。
- 「はやぶさ」サンプル国際研究公募の実施について
1 月 24 日(火曜日)、JAXA は、小惑星探査機「はやぶさ」が持ち帰った小惑星「イトカワ」の微粒子(サンプル)の分析について国際公募を開始すると発表した。国際公募は、広く世界の専門家から「イトカワ」サンプルの研究提案を募り、より優れた研究を選定することで、「はやぶさ」プロジェクトの科学的成果の最大化を図ることを目的としている。国際公募は複数回に分けて行うことを予定し

ており、第1回目の国際公募は1月24日(火曜日)から3月7日(水曜日)で、審査結果の発表は5月中旬を予定している。

宇宙開発に関する海外の動向

- サウンディングロケットの2回目の試験打上げを実施 【米】
1月11日(水曜日)12時25分(世界標準時、以下同じ)、NASAはワロップス飛行施設でサウンディングロケット「Terrier-Improved Malemute」の2回目の試験打ち上げを実施したと発表した。
- 長征3Aロケットによる静止気象衛星の打上げに成功 【中】
1月13日(金曜日)0時56分、中国は西昌衛星発射センターより長征3Aロケットを打ち上げ、静止気象衛星「風雲2F(Fengyun-2F、FY-2F、Fengyun-2-07)」の所定の軌道投入(静止トランスファー軌道)に成功した。
- デルタ4ロケットによる軍事通信衛星の打上げに成功 【米】
1月20日(金曜日)0時38分、米空軍(USAF)及び米United Launch Alliance(ULA)社は、ケープカナベラル空軍ステーションよりデルタ4ロケットを打ち上げ、USAFの軍事用広帯域全球通信衛星4号機(WGS SV-4、WGS-4)の所定の軌道投入(スーパーシンクロナス軌道)に成功した。